

キャラクター名
嶋野 生 (しまの めい)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ウロボロス		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	小学生
	オプション		年齢	11歳	性別	女
覚醒	感染	衝動	妄想	初期侵食率	31	%
出自	安定した家庭	経験	平凡	邂逅	UGN	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	0	0			1	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	3	1	0			4	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	10		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:心理(恋心)	1		情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ストレッチフェイス	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス消費
特異点	P	N	
恋愛	P 幸福感	N 疎外感	
キャメルん	P 友情	N 劣等感	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
原初の黄:加速装置	3	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: 基本侵蝕+3、R間あなたの行動値を+[Lv×4]する								
得意領域	5	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: R中に行く<RC>を使用した判定ダイス+Lv個する								
雨粒の矢	1	3	メジャー	視界	シーン選択	RC	-	
効果: 攻撃力+[Lv×2]の射撃攻撃を行う、《コンセントレイト》組み合わせ不可								
背教者殺し	5	3	メジャー	-	-	RC・白兵	-	
効果: このエフェクトを組み合わせた攻撃で1点でもダメージを与えた場合、そのR間対象が行うあらゆる判定ダイス-[Lv+1]個する								
起源を断つもの	3	4	メジャー	-	-	シンドローム	LIMIT	
効果: 《背教者殺し》と同時使用、《背教者殺し》によって減少するダイスの数をさらに-3個する、1シーンLv回まで								
原初の赤:氷の戒め	3	2+1	メジャー	-	-	RC	-	
効果: 射撃攻撃を行う、命中した場合そのR間対象が行うあらゆる判定ダイス-[Lv+1]個する								
原初の黒:奇跡の雫	1	6+2	オート	視界	単体	自動	100%	
効果: 基本侵蝕+3、対象は戦闘不能を回復、HPを[Lv×5]まで回復、自身を対象にできず、1シナ1回まで								
力の法則	3	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 対象がダメージロールを行う直前に使用、そのダメージを+[Lv+1]d10する、1R1回								
仕組まれた幸運	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: チャンスはつかみ取るもの!								
成長促進	★	-	メジャー	視界	シーン選択	自動	-	
効果: 植物をね、操るの!								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

11歳の小学校6年生
身長は平均よりやや低い

「お姉ちゃんが明お兄ちゃんと恋してる!いいなあ~私も恋したい!!」

◆ PC ②用ハンドアウト 女性
ロイス:恋愛 P:執着/N:不快感
カヴァー/ワークス 自由/UGN チルドレン
神輿島支部に所属するUGN チルドレンの君はここ以外の外の世界をよく知らない。だから君は「自分の知らないもの」を知ることにとっても意欲的だ。最近君は上司である「キャシー・キャラメルポップコーン」より社会勉強の一環として、マンガやアニメ、小説等を彼女から借りて外の世界について学んでいた。すると今回借りた本で君は恋愛というものを知り、それに対して強い好奇心を覚えた。
君が恋愛について思いを馳せながら支部へ向かって歩いていると、海辺へと向かっていたPC ①とぶつかってこけてしまう。慌てて手を差し伸べるPC ①と、その手を取る君。このシチュエーションは借りた本で見た「ヒロインが恋に落ちるシーン」とまったく同じだった。「彼についていけば恋愛を知ることができるかもしれない」と確信した君は、PC ①や彼に好意を寄せる人物たちを観察することにしたのだった。
